

守谷市の適正規模の考え方について

- ・ 適正規模・適正配置の必要性
- ・ 守谷市における学校規模（学級数）について
- ・ 規模別特性について（小規模化の長短、大規模化の長短）
- ・ 今後の推移

■適正規模・適正配置の必要性

学校教育(義務教育)の目的

各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、また、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うこと(教育基本法第5条第2項)



学校教育環境の望ましい形

児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力しあい、切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていくという学校の特質を踏まえ、小・中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましい(文部科学省「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」)



適正規模・適正配置の必要性

「**子どもたちにとって望ましい教育環境をつくる**」という観点で適正規模を設定し、適正配置は、「**適正規模(子どもたちにとって望ましい環境)の学校を、市全体で中長期的に持続させる**」ことを目的に検討する。

守谷市における学校規模について

事務局 提案	小学校	過小規模	5 6	小規模	11 12	適正規模	24 25	大規模	30 31	過大規模
	中学校	過小規模	8 9	小規模	11 12	適正規模	24 25	大規模	30 31	過大規模

- 学年数の異なる小中学校で適正規模が同じ学級数で良いか。
- 規模別学級数は適切か。
- 規模別特性の内容を精査し、出典元を明記すべき。

守谷市における通学距離の基準

小学校では片道おおむね2km以内、中学校では片道おおむね4km以内とします

- 市内全域を網羅できる距離、かつ、国の基準以下で設定します（市内全域で2km・4km以内でいずれかの学校に通学できる）。
- 児童・生徒の身体的な負担軽減に留意し、遠距離となるケースでは、スクールバス等による通学支援など、児童・生徒や保護者の負担軽減に努めます。
- 地域性や通学体制（特に通学路の安全性）などに配慮します。

■守谷市における学校規模(学級数)について

(第2回審議会) 守谷市における学校規模の考え方

事務局 提案	小学校	5 6 過小規模	11 12 小規模	24 25 適正規模	30 31 大規模	31 過大規模
	中学校	8 9 過小規模	11 12 小規模	24 25 適正規模	30 31 大規模	31 過大規模



(新) 守谷市における学校規模の考え方

事務局 提案	小学校	5 6 過小規模	11 12 小規模	24 25 適正規模	30 31 大規模	31 過大規模
	中学校	2 3 過小	8 9 小規模	18 19 適正規模	24 25 大規模	25 過大規模

- 学年単位での行事運営や特別教室の利用状況を考慮し、学校規模は小学校と中学校とで分ける。
- 適正規模の最大ラインについては、市民アンケート結果を参考としつつ、学校運営面から許容範囲と考えられる学級数(小学校24学級、中学校18学級)とする。
- 適正規模の最小ラインを全学年でクラス替えのできる規模とする。かつ、中学校においては免許外指導解消が可能な規模とする。
- 小規模の最小ラインは、小中ともに複式学級が発生しない規模(単学級規模)とする。

■規模別特性について(小規模化の長短)

	小規模化	
	メリット	デメリット
学習面	○児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。 ○学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。 ●児童生徒が意見を出しやすい。	○学級間の相互啓発がなされにくい。 ○運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。 ○中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくい。 ○グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りにくい。 ○部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。 ●複式学級となると、異学年で教える内容が異なるため、教えるのが難しい。
生活面	○児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ○異学年間の縦の交流が生まれやすい。 ○児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。	○●△クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。 ○集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ○集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。 ●複式学級となると、学年単独の行事が企画しづらく、学年単体の思い出作りが難しい。
運営面	○全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。 ○学校が一体となって活動しやすい。 ○施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。	○経験、教科、特性などの面でバランスのとれた教員配置を行いにくい。 ○学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いにくい。 ○教員の出張、研修等の調整が難しくなりやすい。 ●複式学級になると担任数が減るため、一人ひとりの校務負担が大きい。
その他	○保護者や地域社会との連携が図りやすい。	○△PTA 活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。

○:文部科学省「小・中学校の設置・運営の在り方等に関する作業部会(第8回) 配付資料」

●:教職員ヒアリング(他自治体等含む) △:市民アンケート

■規模別特性について(大規模化の長短)

	大規模化	
	メリット	デメリット
学習面	○運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい。 ○中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しやすい。 ○グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りやすい。 ○様々な種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい。 ●保護者の強みを教育課程に生かせる。	○△全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。 ○学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しにくい。 ●学級の足並み(進度等)をそろえるのに時間がかかる
生活面	○●クラス替えがしやすい。 ○豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい。 ○●切磋琢磨すること等を通じて、社会性や協調性、たくましさ、一人一人の資質や能力を伸ばしやすい。 ○学校全体での組織的な指導体制を組みやすい。 ●集団生活に慣れることができる	○学年内・異学年間の交流が不十分になりやすい。 ●校外学習などの活動の際に制約kが生じる。 ●児童生徒の活躍できるチャンスが少なくなる ●大人数が苦手な児童生徒にはプレッシャーや圧迫感がある ●全校児童・生徒でのイベントが少ない
運営面	○経験、教科、特性などの面でバランスのとれた教職員配置を行いやすい。 ○●学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いやすい。 ●特に若手の先生にとって相談・指導が受けやすく、横の連携が図られる。 ○●校務分掌を組織的にを行いやすい。 ○出張、研修等に参加しやすい。 ●専門教員が多い。	○●教職員相互の連絡調整が図りづらい。 ○●△特別教室や体育館等の施設・設備の利用の面から、学校活動に一定の制約が生じる場合がある。 ●事務処理が多い ●パーソナルスペースが少ない ●学年会等に時間がかかる ●校務分掌の負担が一部職員に偏る傾向がある
その他	○PTA 活動等において、役割分担により、保護者の負担を分散しやすい。	○保護者や地域社会との連携が難しくなりやすい。

○:文部科学省「小・中学校の設置・運営の在り方等に関する作業部会(第8回) 配付資料」

●:教職員ヒアリング(他自治体等含む) △:市民アンケート

■今後の推移

黒:適正規模 ピンク:大規模 赤:過大規模 青:小規模

	教室	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2038	2043
		R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R20	R25
大野	普通	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	特支	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
黒内	普通	37	38	41	41	42	41	38	37	36	36	34	30
	特支	11	12	9	9	9	9	9	8	8	8	7	6
守谷中	普通	14	16	17	19	20	21	22	22	22	20	18	17
	特支	2	3	3	3	3	4	4	4	4	3	3	3
守谷	普通	22	21	20	19	18	18	18	18	18	18	18	20
	特支	6	5	5	5	4	4	4	4	4	4	4	5
郷州	普通	12	13	12	12	12	12	12	12	12	11	7	6
	特支	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2
愛宕中	普通	14	15	15	15	15	14	13	12	12	11	9	9
	特支	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3	2	2
大井沢	普通	13	13	13	12	11	11	11	11	11	11	12	9
	特支	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4	5	3
御所	普通	12	11	10	9	9	9	9	8	8	7	6	6
	特支	3	3	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1
松前	普通	11	11	11	11	10	10	9	8	7	6	6	6
	特支	5	4	4	4	4	4	3	3	3	2	2	2
御所中	普通	17	16	14	14	13	13	12	12	12	12	9	9
	特支	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2
高野	普通	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	特支	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
松丘	普通	19	18	17	16	15	14	13	12	12	12	12	12
	特支	5	5	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3
けや中	普通	13	13	13	12	11	11	10	10	9	8	6	6
	特支	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1

小学校規模別推移

区分	R6	R11	R15	R20	R25
	小	小	小	小	小
過大規模	1	1	1	1	0
大規模	0	0	0	0	1
適正規模	5	3	2	3	2
小規模	3	5	6	5	6
過小規模	0	0	0	0	0



中学校規模別推移

区分	R6	R11	R15	R20	R25
	中	中	中	中	中
過大規模	0	0	0	0	0
大規模	0	1	1	0	0
適正規模	4	3	2	3	3
小規模	0	0	1	1	1
過小規模	0	0	0	0	0

※R5年度推計結果から(R8以降は特定地域選択制度を考慮していない)